
ブラックジョーカーズ

暁コウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ブラックジョーカーズ

【Nコード】

N3134E

【作者名】

暁コウ

【あらすじ】

記憶喪失の少年の無残な日々。謎満載の館の住人。

プロローグ（前書き）

残酷な描写が出てきますので苦手な方はご注意ください

プロローグ

目を覚まして最初に目に入ったのは大きな月だった。
石造りの重厚な壁に洋風の窓。

そしてその外に冷たく輝く、笑っている様な白い月。
まるで現実感のない、それはきつとどこか別の世界の美しい光景。
ふわふわと空を飛んでいるような陶酔感。
だが、それなのにひどく寒い。

体を縮め寒さを和らげようとして落下した様に自分の状況に気づいた。

椅子に座らされ後ろ手に縛られている。手首に食い込む縄が痛い。
念入りに椅子に縛り付けられているせいで身動きがまったくできない。

「なぜ…」

と、口に疑問を出し前後の状況を思い出そうとするがまったく思い出せない。

それどころか…、それどころか！

「なんだ？おれは…？ここは…？」

瞬間今までの寒さなんて比べ物にならないくらいの悪寒が体を駆け抜けた。

まったく思い出せない、自分の名前も！ここがどこかも！いまがいつかさえも！

頭の中すべてが真っ白で自分の見るべきものが一つもない。

「くそっ！どういうことだ！？」

パニックになって取り合えず立ち上がろうとして自分が身動きできない事を思い出した。

それでさらにパニックは増しどうしようもない恐怖が湧き上がってくる。

「うわああああー！！」

意味のない叫びは恐怖に飲み込まれた証拠だ。
頭のなかはぐちゃぐちゃでどうしようもない。
なぜなぜなぜなぜ

壊れたプログラムのようにそれだけがループする。目には後から後から涙が浮かんでくる。

「目が覚めたか」

声が聞こえた。地獄の底から響くような重みのある深い声。

「誰だ!？」

驚いて反射的に上げた声は上ずっている。

さっきまで確かにこの部屋には自分以外の人間いなかったはずだ。

「誰か、か？まさか自分が何者かすら解らない者から誰何を受けるとは。いやいや、これはなかなか哲学的な問いかけではないか」

その答えが返ってきたところで、ようやくそいつの姿を見つけた。一体いつからそこにいたのか、そいつは月明かりが差し込む窓のすぐ横の壁に背を預け、そこで黒革の本に目を落としている。神父が着るような漆黒の礼服で、その存在が闇に溶けてしまいそうなほど静かに。

年は30代の後半には入っているかもしれない、堀の深い悩ましげな顔、背は高く180センチはあるだろう。そんな神父が。

「あんたは？」

「まあ、落ち着きたまえ、どうせ君には無限ともいえる時間がある。」

そういつて男はようやく本を閉じて視線をこちらへ向けた。

「お、お前が俺をここへ？」

「そうだ、だがお前の記憶がなくなっていることに関しては違う、それは君が選んでそうした君自身の責任だ。」

「どついうことだ！？事情を知ってるなら説明してくれ！」
「言われなくとも、それが私に課せられた責務だからな。説明はしよう。」

その言葉に少し安心する。今はまったくのゼロの状態だ、なんでもいい少しでもいいから情報がほしい。

「だがその前に……」

と、男は部屋の隅の机に視線をやる。

そこには一丁の回転式弾装の拳銃が一丁と弾丸が一発のっている。

「貴様は生きているとはどついうことだと思つ？」

目覚めたときと同じ悪寒が走った。

「お前は今さつき私に何者かと訊いたな。ならばお前は何者だ？何処から来て何処へ行く？目的は？」

「そんなことは……」

「わからないか？」

「……」

神父はゆっくりと机まで歩き拳銃を手を取った。

「無理もない……。何故ならお前には何もないのでからな。」

「何も……」

「そう何も。喜びも悲しみも、怒りも楽しみも、哀愁も快楽も、憎しみも愛しさも、強さも弱さも、背負うべき罪も与えられるべき罰も。過去も未来も、矜持も理念も、倫理も諦観も、思考も記憶も、知恵も勇気も、守るべき者も傷つけられるべき敵も、そして……生と死すらも。」

ゆっくりと神父は弾を込める。

「な、に、も……ない？」

自分の中に得体の知れない大きな底なしの穴が開いている。

神父は拳銃の狙いを定めた。

「だが、お前はここに存在している。何故だ？」
ゆっくりと…、神父は引き金を引いた。

バン！という轟音はすぐさま夜の静けさに喰われて消えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3134e/>

ブラックジョーカーズ

2011年7月22日20時04分発行